

第4回サービス連携高度化部会 議事録

日 時： 令和5年11月27日（月）15：00～16：40

場 所： 富山県民会館7階 701号室

出席者： 委員名簿のとおり

1 開会

2 挨拶

●田中交通政策局長

皆さんこんにちは。本日第4回のサービス連携高度化部会を開催いたしましたところ、委員の皆様方には大変お忙しい中、ご出席いただきまして誠にありがとうございます。また、楠田委員は、今回はリアル参加ということで、遠路お越しいただきましてありがとうございます。

県では昨年6月に地域交通戦略会議を立ち上げまして、昨年度と今年度の2年間で新しい計画を策定することとしております。

これまで何回も会議を開催し、当部会、他3部会においても、幅広く意見交換、議論を重ねてきております。今年8月の全体会議では、関係者間の役割分担・責任分担、取り組むべき施策ということで議論させていただき、地域交通サービスは公共サービスとの位置付けで、自治体・県民の役割を、事業者への側面支援から、自らの地域に対する投資・参画ということへ舵を切ることが必要とされたところでした。

本日はこれまでの部会や、全体会議での様々な検討を踏まえ、戦略に位置づける施策について議論いただきたいと思いますと考えております。委員の皆様方には、それぞれの立場から忌憚のないご意見をいただきますようよろしくお願いいたしますと思います。

それでは、よろしくお願いいたします。

3 議事

(1) 富山県地域交通戦略に位置付ける施策について

●長尾部会長

これから第4回サービス連携高度化部会を開催させていただきたいと思います。

本日は、施策について、4回目の部会となります。今日も前回までと同じように、活発にご意見をいただければと思います。

それでは議事に入ります。これまでの富山県地域交通戦略会議や各部会では、参考資料にある、持続可能な欧州のモビリティ計画（SUMP）の策定プロセスを参考に、バックキャスティング型の議論を進めてきております。

昨年度は参考資料1に含めております「地域交通ネットワークの目指すべき姿」などを整理いたしました。今年度も、前回の7月のサービス連携高度化部会で議論した後、8月の全体会議で関係者間の役割分担・責任分担として、地域交通サービスを公共サービスとして位置づけること、地域の活力・魅力の向上のために必要とするサービスの実現は、地域の当事者の自治体・県民による投資・参画によって目指すことを整理しております。

今回の部会ではこうした会議や部会での議論の結果を踏まえ、計画に位置付ける策について、議論をしていきたいと思っております。本日はあわせて、事務局から、県政世論調査の速報結果の概要についても報告してもらいます。こちらは計画の3つの目標のうち、県民の満足に関して具体的な目標値を議論する際の参考データとなります。

こちらについても何かあれば、後ほど皆さんからコメントを伺いたいと思っております。それでは最初に事務局から説明をお願いいたします。

●事務局

(資料1、資料2、資料3に沿って説明)

(2) 質疑応答・意見交換

●長尾部会長

ありがとうございました。

事務局より地域交通戦略に位置づける施策案について説明がありました。

本日の部会では、これまでの会議や部会の議論を踏まえ整理された資料2の施策案について、サービス連携高度化部会としての考えをまとめるために、議論をしていきます。視点として、1点目は、これまでの委員の皆様からいただいた意見が反映されているかどうか。2点目として、重点的に取り組むべき施策は何か。この2点についてご意見をいただければと考えております。また、記載内容に関連して、直近に取り組まれている事例等がありましたらご紹介いただけるとありがたいです。ここでご紹介いただくことで、委員の皆様と情報共有を図っていきたいと考えております。

そして事務局から、施策とあわせて今年度実施した県政世論調査の結果について、報告がありました。こちらについては本日の部会で結論を出すことはしませんが、もし現在の段階で何かご意見等があれば、あわせてご発言をお願いします。また、結果を受けてのご感想や、戦略目標設定にあたって留意すべき点など、ご発言をお願いしたいと思います。

では、私の方から指名させていただく順番にて各委員の皆様のご意見を伺ってきたいと思います。時間は一人5分程度を目途にお願いいたします。

●品川委員

資料4をご覧いただきたいのですが、前回の第3回サービス連携高度化部会から今

回までの間に、富山 my route 推進協議会としてイベントを開催しましたので、そのご報告をさせていただければと思っております。

今月、第1週目に富山マラソンが開催され、そこに合わせて、富山市、富山青年会議所が主催の「まちめぐりとやま」という富山の中心街、駅北、駅中、駅南、城址公園、ブランドプラザにかけて、同時多発的に様々なイベントを実施し、まちなかのにぎわいと移動を発生させ、活性化につなげるという趣旨のイベントがありました。県外からも多くの方がお見えになる11月の第1週に開催され、富山 my route 推進協議会でも協賛させていただきまして、my route 上のデジタルチケットを活用したイベント企画を2つ実施しました。資料4に、2つのデジタルチケットを使った企画をまとめましたのでご報告申し上げます。

最初に、もともと富山青年会議所さんのプロポーザルに応募された富山北部高校の情報デザイン科「チームうさっちゃ」の企画のスタンプラリーを、my route の中で作り込み、11月3日から5日の3日間、実施しました。作り込みは私どもの方でさせていただいたのですが、運営はほぼすべて富山北部高校の皆さんにさせていただきました。

結果ですが、総参加者数が174名、うちデジタルチケットを購入してお使いいただいた方が89名でした。実はmy route は、現在クレジットカード決済しかできないもので、肝心の高校生の皆さんが、my route でスタンプラリーはできるのですが、チケットが買えないということで、参加が半分ぐらいだったのですが、そのうちスタンプラリーをすべて完走して景品を交換いただいた方が134名です。数が多いか少ないかは別として、全員の方をお願いして、うち119名にアンケートに回答いただきました。

「スタンプラリーが外出のきっかけになりましたか」という問いに9割の方が「はい」とお答えいただきました。一方、「公共交通機関をどのくらい利用されていますか」といった問いに、約半数の方が「ほとんど使わない」という方でありました。このスタンプラリーをきっかけに、デジタルチケットの購入や公共交通機関の利用をされており、自由記述欄の感想で「電車で街を巡るきっかけになった」「富山市内に住んでいるのに、知らなかった映えスポットを知ることができた」「子供と一緒に初めて電車に乗った」「アプリでスタンプラリーができるのは面白い」「ライトレールで行ける範囲が広い事を周知する良い企画だと思った」「ウォークするきっかけをいただき、ありがとうございました」というような前向きなコメントをいただきました。

景品はスタンプラリーのお店に協賛いただいて出してもらっています。デジタルチケットは、もともと何種類もアプリ上で販売しており、こういった形のイベントを繰り返すことで、公共交通の利用や、まちなか、公共交通沿線の飲食店・ショップの売上増や来店増、認知向上ということでwin-winの関係が築けると考えた次第です。

それからもう一つの企画が、富山マラソンに参加する県内・県外ランナーの方対象で、1日乗り放題切符をこの3日間に限り半額にして、お使いいただくというもので、富山県庁と連携し、また富山マラソン事務局とも共同で告知し販売しました。

結果としては2,000枚を販売上限としたところほぼ完売しました。昨年が1,180枚だったところ、昨年よりも、告知の効果や、昨年ご利用いただいた皆さんもリピート

いただいたと思われ、倍増とはいきませんが企画枚数、ほぼ完売でした。約5割の方が事前購入なのですが、ランナーの方たちは、このイベントに向けた告知の中で当日使ってみようと思われた方も約半数おられ、タイミングと告知とイベント内容の連携によって、半額だったということもあるとは思いますが、チケットを増販できたことは、公共交通の利用促進と、Ma a Sという仕組みの浸透に役立つことができたということです。また、富山市内、富山マラソンのスタートになる高岡市内の、様々な観光地、観光施設の割引クーポンをつけたのですが、利用実績も上がり、クーポンがこのデジタルチケット購入のインセンティブになり、施設に行ってみようと考えていただいたと思っております。

そのため、資料2の17ページにあるとおり、新たな企画乗車券・クーポンの企画立案・作成を通して、多くの方にMa a Sアプリに関わっていただいて、結果として移動の促進、にぎわいづくりということにも取り組めたと思います。それから、次の17ページ(3)にありますとおり、北陸新幹線敦賀開業もいたしますが、県外から来られる皆さんに県内の観光を楽しんでいただく際に、公共交通を利用した移動促進につなげる取組にも今回の結果が活きるのではないかと思います。18ページにあるように、観光地、目的地の皆様に、こういった実績をもとに、今後ご提案をして、クーポンの割引にご協力いただいたり、デジタルチケットを一緒に組成いただいたり、様々なPRに努めることにご参画いただくと、積極的、主体的に関与をしていただくことを進めていければいいと思っております。

また、こういった実績も踏まえて、(5)にある、観光・商業・店舗等の企画にこだわらず、健康や子育て等、そういった生活に関わる部分においても、例えば歩く距離を伸ばすような仕組みもスマホのアプリに様々ございますので、そういった仕組みと連携させて健康増進に努めることや、また、各地域の交通事業者ともより一層密に連携させていただいて、日常使いの中で、より多くの県民・市民の方にご利用いただける企画チケット等を検討していく余地・伸び代が多々あると考えております。

また、資料はございませんがmy route、順調にダウンロード数も日当たりアクセス数も伸びており、ダウンロード数は現在、県内で2万3,000件までいきました。また、日当たりのアクセス数も去年が100件前後のところを、現在200件前後で推移しております。まだまだ低いかもしれませんが、着実に利用は伸びております。

現在バスロケーションシステムとはすでに連動しておりますが、来年3月には、軌道線、富山市の路面電車、また高岡万葉線の位置情報も表示されるようになります。また、マイステーション機能により、よく利用するバス停や駅の様々な情報、次来るバスが現在どこにいるなども非常に見やすくなっておりまして、日常使いする方にも使っていただける機能を着実に増やしています。

現在、ダウンロードが伸びているのは、単に検索だけの場合はログインパスワードが必要ないという仕様としているためでもあり、そのような様々なユーザーからの声なども生かしながら、機能改良を進めて、公共交通の利用促進、移動の促進、にぎわいづくりに貢献できればと思っております。

まさに資料2の16～18ページの目指すところに、様々な関係者の方を巻き込みながら、ご参画いただきながら進めていきたいと思っておりますのでよろしくお願い致します。

●長尾部会長

ありがとうございました。実際の取組結果についても、資料に基づいてご報告をいただきました。もし、簡単な質問がありましたら各委員の皆さんからお願いしたいのですが、いかがですか。何か聞きたいことはございませんでしょうか。

●楠田委員

私も最近マラソンなどいろいろなレースに参加するのですが、ランナーは当日までにかなり練習します。半年前ぐらいからレース当日までに何回も練習したり、集まったり、市民の方も、スポーツすることが楽しいという機運を高めながら、使っていただく取組をされると、その当日だけ急激に利用が増加するだけでなく、もう少し循環すると思うので、大会の前後日に加えて練習期間にも取組をされたらどうかと思いました。

●品川委員

ありがとうございます。またぜひ企画を拡充していきたいと思えます。

●長尾部会長

練習に何人ほど取り組んでいるかは、マラソンの事務局の方でないとわからない情報ですか。いかがですか。

●事務局

マラソンの事務局に問い合わせないとわからないため、現在、手元にはデータがございません。

●長尾部会長

いいアイデアをいただけたと思います。

確かに練習に取り組んでおられるランナーもいると思いますので、その人たちを組織化や会員化を行い取り込んでいくことも重要な視点ではないかと思えます。どうもありがとうございます。

そのほか、何かございませんでしょうか。ダウンロード数は2万3,000件ほどということですが、この性別・年齢別の分布状況はおわかりになりますか。データとしてはあるのでしょうか。

●品川委員

残念ながらそういう情報は上がってこないのですが、答えていただける方にアンケートの形で調査をすることは可能です。ID、メールアドレス、パスワードのみでダウンロード・登録できる仕組みで、そのような個人情報は取っておりません。

●長尾部会長

わかりました。今後そのような視点もデータ解析の上で考えていただければと思います。

●新庄委員

富山地方鉄道でございます。よろしくお願いいたします。

まず施策についてですが、これまでこの会議で意見されたことがほぼすべて反映されていると思われました。その中で特に重点的に取り組んでいただければと思う施策、3点について申し上げます。

1つ目ですが、世論調査結果に関連します。3つの質問がございますが、それぞれ「利用しないのでわからない」という答えが3割以上ありますが、交通事業者からすれば、「いいえ」の方がまだよく、本当に残念で、まだまだ移動には必要としないという方がこの地では多いことを強く受けとめなければならぬと思われました。

地域交通については様々なところで会議も開かれておりますし、移動以外の様々な必要性も述べられており、我々も含めた関係者間では、かなり理解されている一方、そのことを知らない、まだ関心がない方も依然多いはずで、この戦略会議でも、富山県は鉄道が全市町村に通っており、利便性の向上を図って、目標も設定して取り組むという議論が進んでいますが、実際はその当事者となる県民・市民の生活には、まだまだ地域交通の存在が薄く、移動手段としてはやはり自家用車が中心で、地域交通はまだそのサブ的な存在なのかと思われましたし、アンケート結果はそのようなことの表れではないかと思えます。

施策に、このことも想定されていたのか、13ページの方に関心を持っていただくことに繋がるものがございます。この中でも特に健康面、高齢の方やこれからそれを意識される年齢層の方、また環境面、温暖化を含めて猛暑や異常気象は、誰もが本当に身近に感じていますし、これから地域交通をいかに自分事とらえることができるかであり、普及啓発とありますが、このようなことの露出を高めることも含めて、このような施策が今後非常に大事になってくるのではないかと思われました。

2つ目ですが、11ページの(2)下段に関連します。乗り合いバスの定時性に関して、とらえているのですが、その定時性を保つことは非常に難しく、むしろ遅延していることが常態となって、乗り合いバスのサービスレベルを落とす原因となっています。一方、道路状況によってはスムーズに運行できる時もあるため、時間の調整なども含めた設定が事業者では難しく、改善できない課題であります。ですが、このようにバスロケーションシステム等のデータをもとに、関係者で解析を進めて、バスの定時性の改善に繋がっていけば、バスの利便性も向上すると思っております。関係者の

皆様と連携して、誰もが、こういった点で変わったなと思われるぐらいに取り組んでいきたいと思いました。

最後の3つ目です。これは14ページです。地域交通の支え手とありますが、これは他の部会でも話が出ているようですが、運転手不足の問題。地域交通に運転手がいなければ、利便性を高めるどころか、現状維持すら厳しい状況にあります。今後どのようなやり方で運転手を確保するのか、あるいはどのような代替策で対処するのか、鉄道サービス部会でもお話ししましたが、私どもは本当に利益の出る仕事を減らしてでも、運転手の労働力を公共交通の維持に充てている状況です。事業者にとっては非常に大変な問題ですので、これこそ最優先で取組成果が見えるように進めていただければと思っております。以上です。

●長尾部会長

ありがとうございました。3点に集約して、今後力を入れて欲しい点について、ご意見をいただきました。

最後にお話しいただいた運転手不足については、いろいろな業種においても言われている部分です。特にバス・タクシー、それから運送業者等においては、喫緊の問題になっていると思います。これは地域交通の視点からも重要な課題ですが、産業面においても深刻な問題なっておりますので、もう少し大きな視点で人材不足をいかに解消していくかはまさに緊急を要する課題だと思います。これに関しては、いろいろな業種・産業・業界の中で、今後考えていくべきではないかと思っております。

最初に指摘いただいた健康分野、観光分野に関しては、そのような施設との連携をどのようにしていくか、部会においても挙げられていますので、いわゆる関連分野との連携をいかに考え進めていくか、具体的に、早急に進めていくべきところかと思っております。

乗り合いバスの遅延問題、私も時々乗り合いバスを利用していますが、やはり、遅延気味の運行を常時繰り返しており、10分程度の遅延は頭の中に入れてバスを待つ必要がある状況にあります。これに関してもやはり、定時にバスが運行していただけるように改善をしっかりとる必要がある点だと思います。ご指摘いろいろありがとうございました。

●川嶋委員

とやま観光推進機構の川嶋です。よろしくお願いいいたします。まずは施策案を取りまとめいただきましてありがとうございます。

前回の部会で、私どもが調査した結果、富山県に旅行した経験のある方の交通手段の不満は、①待ち時間が長かった、②乗り場やルートがわかりづらかった、③現金払いしかできなかった、この3項目が上位であったというお話をさせていただいたと思います。

そのような意味で、今回の地域交通戦略で取り組む施策として、地域交通の運行情

報等の案内、Ma a Sやロケーションシステムの充実、それから他の部会で議論されたことですが、キャッシュレス決済の導入などが示されており、観光客のニーズを踏まえたサービスの向上施策と考えています。その辺を評価したいと思います。

また、私が第2回の部会で発言した、公共交通機関を利用した着地型の旅行商品の企画販売の強化、あるいは観光地側からの積極的なアプローチについても、18ページの観光客の移動環境の整備の中で、観光地側の積極的・主体的関与ということで記載されておりまして、ありがとうございます。今後は施策の推進に向けて計画的・効率的に取り組んでいただくことが大事かと思えます。

話が変わりますが、10月の連休中、松前浜や雨晴海岸を散歩していたのですが、そのときJR氷見線の雨晴駅と海岸の間の雑木が取り払われており、駅のホームから海岸がよく見えるようになっていました。そのホームに20人以上の旅行客がおり、上り線だったため、後ろを振り返りながら海を眺めていました。雨晴駅で20人以上待っているのは久方ぶりに見たため非常に驚いたのですが、小さな環境の整備ですが、住民や関係者の協力によるもので、このようなことが観光客の満足度を高めるため、非常に重要だということを改めて実感した次第です。

最後に、言わずもがなですが、公共交通サービスは、まずは生活者、住民がベースと考えております。ただ、人口減少の中、今後利用の増加が期待できるのは恐らくインバウンドを含めた観光客だと思っております。公共交通の維持・向上のためにも、観光客にどう喜んでもらうか、観光客の満足度を高めて、どう観光客を取り込んでいくのかが、今後具体的な施策の実施にあたって、重要な視点になると考えております。

どうぞよろしくお願ひいたしたいと思ひます。以上です。

●長尾部会長

ありがとうございました。特に観光客、外国人の観光客への期待値が大きいかと思ひますが、富山県においては、コロナ前に戻っているような状態になりつつありますか。

●川嶋委員

まだコロナ前までは戻っていないと思ひます。もう少し時間がかかると思ひますが増えつつあります。

●長尾部会長

これから観光、国内の観光客、それから外国人の観光客に期待するところが大きいかと思ひます。

●手崎委員

高岡交通の手崎でございます。よろしくお願ひいたします。

私は第3回のサービス部会から参加させていただいております。まずお示しいただ

いた案について、これまでの議論が十分に反映されていると思いますので、賛成でございます。

タクシーを含む地域交通サービスのところでは、公共サービスに直結するところですし、自らの地域に対する投資・参画へと舵を切る方向づけがされたことは、目指すべきウェルビーイングの向上の実現に進めるものだと思っております。

この部会で議論されてきた、交通事業者間のデータ連携のためのインフラ整備や、利便性向上などの取組の進捗、効果等についてのモニタリング体制を整備していくこと、また、地域交通の支え手として地域住民や沿線企業、店舗に、周知・理解を浸透させていくことがこれから大変重要であると思っております。現在でもそれぞれの地域で交通課題があり、すでに協議会を立ち上げて、デマンド交通や自家用有償運送の取組を実施しているところがありますので、そのような様々な地域の交通サービスも、今回の枠組みの中で連結など調整が必要になると思っております。

重点的に取り組むべき施策は、先ほど新庄委員からもありましたが、やはりタクシードライバーの担い手不足という状況はいまだに続いており、業界としても喫緊の課題であります。担い手が充足できなければ、すばらしい設計があっても、意外に実現できないということになりかねないと考えております。具体的な例を挙げると、交通事業者に特化したマッチングの機会や、魅力を伝える機会を、県、その他市町村に支援していただき、そのような場を設けていただくことはぜひお願いできればと思っております。今後とも引き続き進めていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。以上です。

●長尾部会長

ありがとうございます。最後の方に、やはり人材不足の指摘をいただきました。

これに対するアイデアとして、マッチングの機会を考えていくべきではないかというご意見をいただいたところです。どのような人を対象にマッチングしていくかという対象ターゲットに関しても、着実な計画を考えていくべきではないかと思っております。ご意見ありがとうございました。

●武内委員

まず先ほどからのご意見にもあるように、取りまとめていただいた内容については、これまでの意見も取り入れ、課題も明確にさせていただいておりますので、こちらをもとに、是非この先の議論も深めていただきたいと思いますと思っております。

私の立場からはやはり商店街など、交通で移動された先にあるものの立場として、お話をさせていただきます。この資料の中にもいろいろと取りまとめていただいておりますので、こちらを参考にお話しします。

特に14ページにある、沿線企業・店舗等の取組等ということ、それから前回、前々回ぐらいのお話のときにも、いわゆる公共交通を利用する人にとってのその待ち時間をどのように有効活用していくかについてお話をさせていただきました。私ども商店

街や商店からすると、観光とはまた別の視点で見えております。観光の場合、これはデータの的にも、飲食や観光地を除きますと、どうしても物販は、いわゆる出口といえますか、特にインバウンドであれば、各所をめぐって帰りにお土産含めていろいろな物販を利用される傾向があり、富山の中の商店街・商店に結びつけられていない現状があります。

そうしますと、我々は日常の交通弱者、お客様は自家用車で移動される方が多いわけですが、その中でもそのような足を持たれない方の移動につきまして、非常に関心が高いと思っております。この中にもM a a Sアプリも含めて日常に利用していただくことも非常に重要なことだと思いますし、このアンケート調査にもありますように日常的に公共交通を使っていない方が圧倒的に大勢いることからすると、これを日常に使われる方、今現実使っている方の、より利便性を上げていくことは最も重要だと思っておりますが、普段使われない方がどのようにすれば使われるのかも非常に興味がある分野だと思っております。

その上で前回から今回までの間に、私も実はいろいろなところにお声掛けをして、特に、最寄り駅やバス停等々の待合スペースとして活用するための店舗の開放や、あるいは地域としての公共交通との関連性をどのようにして関心を持っていただくかということで、お話を聞いたり一緒に議論をしたりということを重ねていました。そうすると、このような視点がこれまでなかっただけで、実は、それがその地域の魅力の向上にも繋がる、あるいはビジネスチャンス、商売から言えば、物を買っていただけのようなチャンスに繋がるような観点をもう少し深めていけば公共交通と結びつく部分は大いにあることを感じました。

特にコンビニエンスストアの反応が非常に高かったと思っております。コンビニエンスストアも、地域に対してどうあるべきかを考えておられますし、富山の場合は公共交通がほぼ100%地上を走っていることもあり、そのような意味からすれば、大きな連携もとれそうな、そういう関心を持っていらっしゃる場所もございましたので、ぜひ今後につなげていければと思っております。

そもそも発端は、停留所、バスや電車含めた公共交通を待たれている、日々目にする光景であり、学生さんや、特にご高齢の方で医療機関等を利用される方を見ておきますと、非常に心配になることも多々あります。停留所からはみ出して、安全性の面から見ても危ないと思うほど待合の人がいらっしゃる場合があります。気候の問題で、今年の夏は非常に暑かったですし、そういう意味では、屋外にあり、さらに日よけもない公共交通の待合所やバス停等で待たなければならないことは、もしかしたら利用について二の足を踏ませていることかもしれないと思っております。特に、地域の商店は、広く市民の方に来ていただきたいと思っておりますので、公共交通の利便性や利用に繋がり結びつけば、ぜひ前向きにいろいろと検討していくべきと思っております。

お話したところに対しても興味を持つ方がいますので、これまで視座としてもなかったところに、M a a Sのアプリなど、いろいろなものが出てきたことによってチャンスが広がると思っておりますので、是非そのようなことも含めて進めていければと思

ます。

この投資のところにもありましたが、とやまロケーションシステムの充実・利活用というところでもです。公共交通と、公共交通を利用するための待合エリアは、ただ単に停留所ということではなく、そのエリアとしてとらえた場合に、エリア内の施設、特に商業施設とこのロケーションシステムが連携していくかにより、その待合の時間が待っている方にとってより有意義な時間になっていくと思っております。こちらに対する投資も一つ、前向きに考えていただければと思っております。

私の方からは以上でございます。

●長尾部会長

ありがとうございました。

特に待合の空間について、改善していくことが多々あるというご意見をいただきましたと思います。特に、バス停等の安全面において、待っている間に事故に巻き込まれそのような危険性がある停留所もありますので、待合エリアとしてどのように考えて、整備、改善していくかという視点が停留場等において重要だということが、ご意見としていただきましたと思います。どうもありがとうございました。

●酒井委員

どうぞよろしく願いいたします。

まずは冒頭にまとめていただいた内容につきましては、発言や議論の内容が十分反映されており、全体として反対意見はございません。

私からは、特にM a a Sでの企画の充実や、沿線店舗・企業等の協力についての促進は改めて重要だと思いました。

まずM a a Sの企画充実について、私も富山マラソンは第1回目から参加しております。タイムはともかく、すべて完走しております。スタート地点の高岡までは、バス、新幹線、普通電車、車送迎をすべて経験しまして、昨年・今年と、乗り放題切符を使い、実際には自宅から車を利用して、市内電車を使い、あいの風とやま鉄道でたどり着いています。これまでと比べるとただ移動するだけではなく、コスト面、労力面、普段はほぼ車のみですので、駅を利用する新鮮さとともに、当日はその時間はほぼすべてランナーであるため、乗客同士の交流もあり、非常に満足度は高いと実感しております。期間限定なので、クーポンをどれだけ使おうかというところまで頭が回らないのですが、クーポンを実際に使ってみたかっと思ひますし、実際に公共交通機関自体をもっと使いたいという気持ちになっています。アプリの有効性を実感した身としましては、利用促進の大きなきっかけになると思ひています。

また、沿線店舗や企業等の協力については、地域住民・地域店舗だけではなく、市内委員がいわれたように、企業とも連携することは、運賃の収入以外の支援を増やすという意味ももちろんあるのですが、地域全体の参画ムードを盛り上げていくためには、不可欠なのではないかと思ひます。

現在、議論され今後サービスを促進していく取組が、利用者と交通事業者、もしくは行政の頑張りだけがクローズアップされ、本来密接に関わりのある観光業者や商店・企業などの存在がどうしても薄くなってしまうと、せっかくの活動が空洞化していく可能性があると思います。地域全体の参画ムードは、結局利用者からすれば楽しそうなムードに繋がると思うので、醸成していくためには、利用者と、交通事業者や行政以外の方々の関わりが重要になってくると思います。特に観光側の方々からの積極的な参画や情報発信は、公共交通の利用促進に必要なものであると思います。それも、個々にではなく、M a a SやSNSなどで交流が活発になれば、そこに繋がっていくのではないかと思います。

少々古いかもしれませんが、かつて各駅にあった伝言板や掲示板のような、機能がデジタルなどにより今の時代に合ったものとして、付加されてもいいかとも思いました。愛着醸成のためにも、地域ぐるみの取組を期待したいと思いました。私からは以上です。

●長尾部会長

ありがとうございました。

富山マラソンの体験者から、何かこのようなサービスや、こんな企画があるかという思うことはありますか。

●酒井委員

先ほど楠田委員がいわれたことは、確かにあると思いました。ただ期間を延ばすだけではなく、また継続的に行うわけにはいかないため、イベントを何回か事前に重ねることは、参加する人が参加のきっかけになると思いました。コースを下見したい、どういうところがあるか、見たいのですが、富山マラソンのコースは下見がしにくいので、企画があるかというランナーとしては思いました。

●長尾部会長

実感のある発言ですので、ぜひそのような企画も今後、検討していくべきかと思えます。どうもありがとうございました。

●楠田委員

ありがとうございます。

まず、サービス連携高度化部会としての意見のところですが、17 ページに、少しだけ違和感があることがあります。

本日、私はどのようにして来場したかという、交通系 I C カードを使いました。検索には、グーグルとジョルダンを使用しています。今回は、エコマイカはうまく使用できず現金で支払いましたが、やはり現在、一般的に使われているのは交通系 I C カードです。しかし、今回の資料には交通系 I C カードの言葉がここに入っていない

と思います。交通系 I Cカードの話を中心に決済サービスをどうしていくかを、基本的に考えられていると思います。それにプラスして、決済が弱いため M a a S を使い周遊してもらおうというお話かと思うので、交通系 I Cカードの話は入れたほうがよいと思いました。

続きまして、事業者から出てきているように、交通事業者の担い手不足が深刻化していますので、交通事業者や交通分野の方が、どのようにして使ってもらおうかと考えていくよりも、この 18 ページにあるように、健康、子育てその他分野の方と一緒に作っていった方がいいということです。要は、医療・子育て・飲食・観光分野は、必ず移動しないとイケないわけです。その移動が必要な部分のサービスを交通事業者が担ってくださっており、それが無ければ、自分のところで移動サービスを行う必要があります。例えば病院は送迎バスを運行する、飲食店は自分で運行しないとイケないところを、アウトソーシングしているわけです。これに現在、新たなライフスタイル等に需要が見込めること、観光の方もそうですが、新たなニーズがここにあるから、これに合わせて「一緒に何かできませんか、一緒にしましょう」という発想がこれから必要になってくるため、「一緒に考える」「企画する」ことで、交通事業者の企画力なども補え、資本主義の原理を活用してサービスを生むことができると思います。「一緒に、新しいサービスを作っていきましょう」というメッセージを新たに作り、そのような場を作り、その機運を醸成しながら、先ほどお話をされていたように、「このようなことをやっているからいろいろなサービスが生まれて楽しい」地域にしていく方がいいと思いました。それが資料に盛り込んでいただきたいところです。

ここからコメントです。5 ページにもあるように、新たな担い手の方々が、女性や若い方も働きやすい環境を作っていくことは、現在のバス、タクシー、鉄道会社の状況を見ていると非常に乖離しています。現在、需要と供給が崩れてしまっているわけです。もし、現在ニーズがあってこれだけ人手不足だとすると、もっと担い手のお給料が上がり、やりたい人がいてもいいのですが、まだ労働市場において魅力あるお仕事になっていないわけです。どうしたらいいかということですが、民間企業のため自社で実施する必要があるだろうし、自分でできない場合は、一緒にお手伝いして差し上げるような会議が今だと思います。一緒に考えることです。頭数が足りないため、そこをお手伝いしてあげる。例えばコンサルティングを入れる。売り上げの関係上、デジタルの機器を導入できず、難しい場合は効率化をお手伝いしてあげる。事業者間のお話が難しいのならば一緒にお話しする。これからサービスを連携していく中で、完全にアプリに移行できないとすれば、タクシー会社やバス会社に、多様なモビリティサービスのコールセンターとしての役割を担っていただく必要があります。自動運転化しても一端のオペレーション業務は担っていく必要があるため、効率化や働きやすい環境づくりを着実に実施していくことが、喫緊の課題かと思っています。

次に、18 ページについてです。川嶋委員からあったように、インバウンドを入れる必要があります。韓国、台湾、中国、香港の方々がどのようなプロセスで来日し、どのようなニーズを抱え、何が困っているかというターゲット分析を行い、対策をとつ

ていただくように、他国の状況、エージェント、交通系ICカード、Ma a Sアプリとの連携を着実に実施していく必要があると思います。

15 ページです。高齢者の方の外出時に必要なのはトイレです。駅の整備の時にトイレを拠点に地域開発してもよいと思うほど、トイレは大事だと思います。

●長尾部会長

どうもありがとうございます。4点ほど、ご意見をいただきましたと思います。

連携で終わるのではなく、最初から連携する相手と一緒に作っていくという考え方を、さらに実施すべきということです。特に女性や若者等の利活用においても、働きやすいポイントは、女性・若者の立場から考えればどういうところにあるかということを中心に、多様な人材を活躍できるように考えていくべきだというご意見もいただきました。

また、インバウンドに関しては、ターゲットを国ごとの、国民性、年齢層、職業等においてどのようなニーズを持って、どのような経路を通じて日本へ来ているかという、詳細な分析をさらに進めていくべきではないかということです。

そして最後に、高齢者になるとトイレが近くなるため、トイレの整備・改修をしっかりして、行きたくなるようなトイレを設置していくべきではないかということです。現在氷見市と関わりがありますが、氷見市においても、トイレがまだ和式トイレが多いため、早急に洋式のトイレにすべきという話もあり、各自治体においても問題視し、課題として挙がってきています。これは本当に快適性を高めるために早急に考えていく必要があると思います。

どうもありがとうございました。以上で全委員の皆様にご意見をいただきました。予定時間になっておりますので、もしまだご意見、お考えがあれば、また事務局の方へ連絡していただければ幸いです。以上で各委員からのご意見は終わりにさせていただきます。

●中川地域交通政策監

本日は多くのご意見をいただきまして、誠にありがとうございました。

大変有意義なご提案もいただき、ぜひ実現できるようにしていく必要があると思います。ながら聞かせていただきました。

この部会で議論いただいているような、例えばIT技術を活用したMa a S、あるいはライフスタイルや意識改革などを含めたモビリティーマネジメントと呼ばれるものは、どこの自治体の交通計画の中にも書かれるようになってきていますが、そのようなお題目だけが並んでいるようなところが多いようにも感じており、やはり重要なのはその基盤となるべき利便性の向上であり、Ma a SやMMだけをやっても効果が上がらないというところが多いと思います。

一方で、交通戦略会議の中では、鉄軌道の利便性を向上させる、あるいは、バスについてもデータを活用しながらダイヤを最適化させていくことによって実質的な利

便性が上がるようにしていこうということなど、利便性の向上についても、議論をしていますので、それらと相乗効果が出ることによって今日議論をいただいたような内容の効果がさらに大きくなると思います。

今日大変有効なご意見を多くいただいております。大きな効果に繋がることを期待したいと思います。ありがとうございました。

●長尾部会長

ありがとうございました。

このサービス連携高度化部会においては、ただ今ご意見いただきましたが、利便性の向上の実質化をいかに、この部会で成し遂げていくかが大きな命題だと思います。

連携は、いろいろな行動、アクションを生んでいくわけですので、今日いただいた施策に関するご意見を元にして実行化していく、実現化に近づいていく。そのために、どのような連携をしていくべきかが、この部会において、強く求められていると思いました。

では、今日ご熱心に議論をいただいたわけですが、特に資料2の施策案につきましては、各委員からも特段、反対のご意見はなかったため、次回の全体会議におきましてそのように報告したいと考えております。

いただいたご意見は、また事務局と私との間で、内容、表現等に関し検討させていただいて、事務局とまとめた上で全体会議に臨みたいと考えております。そのような方向でよろしいでしょうか。何かご意見ございましたらお願いしたいと思います。

(委員から異議なし)

では、施策案に関しましては前回、それから今回のご意見も踏まえて、全体会議に繋いでいきたいと思っております。

それから今日新たに示していただきました資3の県政世論調査の結果ですが、これに関しては目標の設定、またはその後のモニタリングのために、データを有効に活用していくべきであり、それから、このような調査を継続的に、今後も進めていく必要があると皆さんのご意見を聞いていて思いました。

今回の調査結果をもとに、具体的な目標値の設定について、次回の全体会議で議論するのが適切ではないかと思っておりますので、そのようにさせていただきたいと思えます。世論調査の結果について、そういう方向でよろしいでしょうか。

(委員から異議なし)

それでは、そのようにさせていただきます。

今日は議事次第に関しましては以上でございます。今日も本当に活発なご意見をいただきました。今日のご意見、事務局と検討して、適切な表現にさせていただき、全体会議に臨みたいと思っております。

皆様のご協力を得まして本日も議事が予定通り終了しましたので、ここで感謝を申し上げます。この後は事務局にお返ししたいと思います。

4 閉会

●田中交通政策局長

今日はありがとうございました。

富山 my route やマラソンの話など、具体の取組もご紹介いただきましたし、公共交通のきっかけ、満足度の話、また利用促進のアイデアなどもいただきました。また、観光客の取込も大事など、いろいろな幅広い視点でご意見いただきましたので、本日いただいたご意見を踏まえ、策定に向けて取り組んで参ります。

本日は本当にありがとうございました。